

日本体育・スポーツ・健康学会

体育哲学専門領域 2022年度 第3回 定例研究会

日 程：2023年3月4日（土）15：15～18：00

開催方法：オンライン（Zoom）

注意事項：オンライン配信の閲覧情報はメーリングリストで配信します。メーリングリストへの登録をお願いします。会員以外が閲覧する場合は、会員から研究担当にご連絡ください。また参加者は当日実施する出席調査（Google Forms）に記入をお願いします。

【プログラム】

15：15 代表挨拶 関根 正美（日本体育大学）

【学位論文発表】

座長：関根 正美（日本体育大学）

15：20 研究発表① 唐澤 あゆみ（日本体育大学大学院体育科学研究科博士前期課程）

第32回オリンピック競技大会(2020/東京)における国際オリンピック委員会の諸活動
に対する批判と評価：

「オリンピズム」と「オリンピック・ムーブメント」の視点からの検討を通して

16：00 休憩（5分）

座長：坂本 拓弥（筑波大学）

16：05 研究発表② 中野 大希（筑波大学大学院博士前期課程）

体育授業における痛みの経験の現象学的考察：
身体と世界の関係に着目して

16：45 休憩（10分）

座長：深澤 浩洋（筑波大学）

16：55 研究発表③ 劉 展羽（筑波大学大学院博士後期課程）

中国武術の特質およびその方向性に関する思想的研究：
天人相関の中で生命哲学を実践する内向超越の功夫

17：55 副代表挨拶 深澤 浩洋（筑波大学）

研究発表①、②：発表、質疑合わせて40分

研究発表③：発表、質疑合わせて60分

【発表者氏名、タイトル、概要】

唐澤 あゆみ（日本体育大学大学院体育科学研究科博士前期課程）

第32回オリンピック競技大会(2020/東京)における国際オリンピック委員会の諸活動に対する批判と評価：
「オリंपイズム」と「オリंपிக்க・ムーブメント」の視点からの検討を通して

【概要】

本研究の目的は、2020年東京オリンピックにおけるIOCの諸活動を、「オリंपイズム」と「オリंपிக்க・ムーブメント」の観点から批判・評価することである。新型コロナの緊急事態宣言下での開催となった2020年東京オリンピックに対しては、数多くの批判がなされてきた。しかし、2020年東京オリンピックに対する批判や評価が新型コロナの問題に収斂されるならば、その批判や評価はIOCや近代オリンピックが抱えている潜在的な問題を見逃してしまう可能性があるだろう。本研究は、2020年東京オリンピックに向けてIOCによって遂行された諸活動を「オリंपイズム」と「オリंपிக்க・ムーブメント」の観点から批判・評価したうえで、新たな視点を提示することを試みたい。

中野 大希（筑波大学大学院博士前期課程）

体育授業における痛みの経験の現象学的考察：身体と世界の関係に着目して

【概要】

本修士論文の目的は、体育授業における痛みが児童・生徒にとって有している意味を明らかにすることである。先行研究では、その意味が十分に論じられてこなかった。そのため本修士論文では、現象学的身体論を手がかりに、痛みが、生きられた世界としての体育授業とその世界に生きる児童・生徒の身体とをどのように変容させるのかについて検討する。それによって、痛みの経験が事物や他者とのかかわりを支えていることを明示したい。

劉 展羽（筑波大学大学院博士後期課程）

中国武術の特質およびその方向性に関する思想的研究：天人相関の中で生命哲学を實踐する内向超越の功夫

【概要】

中国武術とは何か。それが何を安心立命の根本とし、「どこ」へ向かうのか。なぜ「中国武術」と呼べるのか。また、功夫(kung fu)は中国武術のグローバルな一般総称として広まっているものの、功夫とは何か、「中国武術は功夫である」は一体何を伝えているのか、人間性または人間社会におけるその意義や価値は何なのか。本博士論文では「中国哲学思想」という人文的土壌の中で「中国武術」の本来性に立ち返り、その特質および特質を基盤とする中国武術の方向性を解明した。

【問い合わせ先：体育哲学専門領域 研究担当】

森田 啓 hirakumorita@ouhs.ac.jp

高橋 徹 t.takahashi@okayama-u.ac.jp